

2025年度 シンポジウム
外国人児童生徒等教育を担う教育者・支援者の育成
— 『多様性の包摂』の実現に向けて—
2026年1月31日 13:00-17:00

東京学芸大学・先端教育人材育成推進機構・
外国人児童生徒教育推進ユニット 2025

オンライン研修「多様性が活かせることばの教育2025」

研修A

「多様な言語的文化的背景をもつ高校生のための学習環境づくり」

活動報告

小西円・市瀬智紀・齋藤ひろみ

本資料の利用について

教育・研修を目的とした利用に限ります。資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトのURL」を明記して利用してください。部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。

2025年度 研修Aのねらい

本研修では高等学校における日本語学習支援に関して、「日本語指導」を、外国人生徒等が、その多様性を活かして主体的に参加し、新たな価値を創造する「ことばの学習」のための「学習環境のデザイン」という視点で捉えなおす。学習環境を、「活動」「人工物（教材・教具等のリソース）」「コミュニティ（共同体）」の3つの側面からいかにデザインするか、事例や現場の取り組みをもとに具体的に学ぶ。こうしてデザインされた環境における学習を通じ、生徒たちが自身の潜在的な力に気づき、さらに能力を開拓し、自分の未来を切り開き社会参加することを期待する。



研修A 1～3回のテーマ(オンライン実施)

日時	講義・グループワーク(GW)のテーマ	特別の教育課程実施校報告
6月8日 (日) 午前	講義: 学習環境としての活動のデザインについて (齋藤ひろみ) GW: 生徒の経験や力を活かす活動のアイデア	東京都立青梅総合高等学校 (永田明久)
7月6日 (日) 午前	講義: 学習環境としてのリソース(人工物)のデザインについて(小西円) GW: 自身が使用した教材・教具について	東京都立杉並総合高等学校 (上園美弥)
8月3日 (日) 午前	講義: 学習環境としてのコミュニティ(共同体)のデザインについて(市瀬智紀) GW: 生徒が能動的に相互作用するコミュニティについて	兵庫県立湊川高等学校 (金子大樹)

各回の資料や報告書は、本ユニットのHPからご覧いただけます。
<https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/>

第1回研修の様子

話し合い：生徒の経験や力を活かす活動

ご自身が行っている日本語の授業や支援で、生徒が知っていること(学んだ知識や経験したこと)や好きなこと・できること(趣味・運動、アート、その他何でも)を活かして行っている活動を紹介してください。できるだけ、生徒自身が決定し、探究し、創造する活動に。また、協働で課題を達成したり、対話によって多様なアイデアに触れて考えを広め、深められるような活動を。

実際には行ったことはないけれども、こんなアイデアがあるという紹介でも構いません。

- ✓ 生徒のどんな知識・経験・強みを生かして
- ✓ どんな語彙・表現を使いながら
- ✓ どんな活動をするか

グループワーク：
生徒の経験や力を活かす活動のアイデア

東京都立青梅総合高等学校
「特別の教育課程」による日本語
指導の取り組み より

1 青梅総合高校の概要（教育課程）

四修制（4年間で卒業を目指すコース）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1年	現代の 英語	地理総合	数学I	科学と 人間生活	体育	保健	英語 コミュニ ケーションI	家庭基礎	情報I	農業社会 と人間	HR									
2年	言語文化	公共	数学I	生物基礎	体育	保健	英語 コミュニ ケーションI	農業と 環境	音楽I 美術I 工業I	総合的な 探究の時間	HR									
3年	歴史総合	体育	英語 コミュニ ケーション A	系列選択科目				自由選択科目				総合 探究	HR							
4年	体育	系列選択科目				自由選択科目				総合 探究	HR									

三修制（3年間で卒業を目指すコース）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
1年	現代の 英語	地理総合	数学I	科学と 人間生活	体育	保健	英語 コミュニ ケーションI	家庭基礎	情報I	農業社会 と人間	系列 選択科目	自由 選択科目	HR													
2年	言語文化	公共	数学I	生物基礎	体育	保健	英語 コミュニ ケーションI	農業と 環境	音楽I 美術I 工業I	総合的な 探究の時間	歴史総合	系列 選択科目	自由 選択科目	HR												
3年	体育	系列選択科目				自由選択科目				総合 探究	HR															

1日の時程

時 限	時 間
A 限	15:40 ~ 16:25
B 限	16:25 ~ 17:10
給 食	17:00 ~ 17:34
SHR	17:35 ~ 17:40
1 限	17:40 ~ 18:25
2 限	18:30 ~ 19:15
3 限	19:25 ~ 20:10
4 限	20:15 ~ 21:00
部活動	21:00 ~ 21:45
最終下校	21:50

三修制は
週3回実施

三修制の生徒は半数程度

第2回研修の様子

グループワーク：
自身が使用した教材・教具
について

グループディスカッション

1. ご自身が使用した教材・教具について、次の内容について紹介しあってください。

- ①対象の生徒は(出身国・地域、滞日歴、学習上の課題)?
- ②どのような日本語の力を高めることをねらいに?
- ③どんな活動で、どのように利用したのか?
- ④教材・教具の利用による成果は?

2. 紹介した教材の情報を、
Padletに、ご記入ください。

こちらの

⑥3年間の日本語指導計画

日本語科の授業内容・使用教材

年次	科目	授業内容	使用教材
1年	日本語基礎	多読、おススメの本の発表、学校生活に必要な語彙の読みなど	手作り冊子(読書記録・感想、Book Talk)、『多読ライブラリー』(アスク出版)、その他多読本、語彙プリント
2年	日本語 I	話すことから書くことへとつなげる演習	『おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文』(凡人社)
		地歴公民・理科・数学などの必修科目の学習に必要な語彙の理解	教科の授業で配布されたプリント、教科学習につながる教材
		様々なテーマについて意見をまとめる演習	『日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座』(アスク出版)
		進路活動につながる活動(履歴書、面接など)、論文などを書くために必要な知識や技能の習得	進路活動に関連するワークシートなど

東京都立杉並総合高等学校
「特別の教育課程」による日本語
指導実施校の取り組み より

第3回研修の様子

「生徒が能動的に相互作用をするコミュニティについて」

- グループ(ランダム 5人程度)に分かれて、次の活動を行ってください。
 - 自己紹介一人1分(活動している場所と名前)
 - ★進行とメモを取る人を決める (パドレッドにメモ)
- <https://padlet.com/shiromi20110126/a-3-2025-8-3-11-45-12-10-s43d77zyivq2eixc>
- 生徒のコミュニティでの活動について、紹介し合う。
 - ✓ 生徒たちが、教室以外のどんなコミュニティで過ごしているか。
 - ✓ そのコミュニティの目的・目標のために、生徒は問題解決や課題遂行に主体的にかかわっているか。そこで、日本語として何を学び、多様性や持ち味をどう発揮しているのか。(具体的なエピソードをご紹介ください。)
 - ✓ そのコミュニティ自体に、かれらの参与による変容があったか。

グループワーク：
生徒が能動的に相互作用するコミュニティについて

3. 「特別の教育課程」の実施状況(概要)

- ・令和6年度から実施。
- ・1年次は4単位分置き換え(週4時間)
- ・2、3年次は2単位分置き換え(週2時間)

日本語指導に関わる校内組織

日本語指導推進委員会

委員長 教頭、日本語指導コーディネーター(1名)
委員 担当 国語科(2名)、外部支援員(1名)

外部支援員・・・R7年度は特別非常勤講師として年間38時間派遣。
日本語指導の経験者より日本語の学習支援や指導法についての助言をいただいている。

本校の0限目科目

2.1	2.2	2.3	2.4	2.5
国語総合基礎	社会科学基礎	数学総合基礎	自然科学基礎	外国語総合基礎
	食文化デザイン	生活と食		

1年次

2.1	2.2	2.3	2.4	2.5
外国語総合基礎II	政治・経済	化学基礎	基礎II	数学総合
	食品衛生		食品	

2年次

2.1	2.2	2.3	2.4	2.5
国語総合基礎II	政治・経済	基礎III	数学総合	化学基礎
	学芸		公民	食品衛生

3年次

兵庫県立湊川高等学校

湊川高等学校における「日本語指導」の取り組み2年目の実施状況

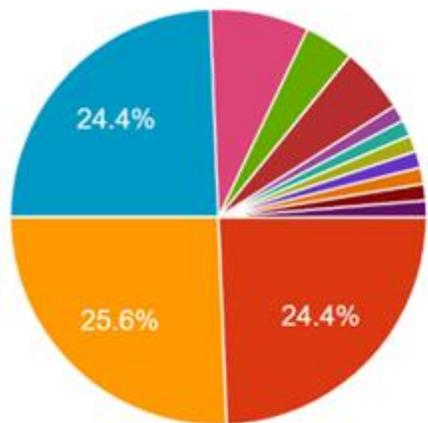
より

研修でねらいとする資質・能力

文部科学省 「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」の「豆の木モデル」（日本語教育学会2019）にもとづき、下表の資質・能力の向上を目指して、各回のテーマ及び内容を設定し、目標を具体化して、研修を実施する。

第1回	捉える力	<p>工 認知面の力と教科などの学力を年齢的な発達や学習経験を考慮して捉えることができる。</p> <p>ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会参加し自己実現ができるかを、社会の変化とともに展望することができる。</p>
	育む力	<p>セ 学校内外の生活・学習に結び付けて、日本語や教科の指導・支援、内容と日本語を統合した指導・支援をすることができる。</p>
	変える力	<p>ヒ 子どもが自身の多様性を支援にして活躍できる教育を実施し、多文化共生を促すことができる。</p>
第2回	捉える力	<p>ウ 子どもの言葉の力を、日本語と母語の両言語を視野に入れ、言語能力の多面性に留意して測定したり評価したりすることができる。</p> <p>ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会参加し自己実現ができるかを、社会の変化とともに展望することができる。</p>
	育む力	<p>ス 子どもの日本語の力を考慮して教材等を選んだり作成したりしてリソースを準備し、学習参加を促すことができる。</p>
	変える力	<p>ヒ 子どもが自身の多様性を支援にして活躍できる教育を実施し、多文化共生を促すことができる。</p>
第3回	捉える力	<p>キ 子どもの暮らしを地域の多文化化や外国人住民支援の状況に関連付けて把握することができる。</p> <p>ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会参加し自己実現ができるかを、社会の変化とともに展望することができる。</p>
	育む力	<p>サ 子どもの母語、母文化、アイデンティティを尊重し、学級・学校・地域における社会参加を促すことができる。</p>
	変える力	<p>ヒ 外国人児童生徒等が地域にもたらす影響を多様性として肯定的にとらえられるように、マジョリティである受け入れ側に働きかけることができる。</p>

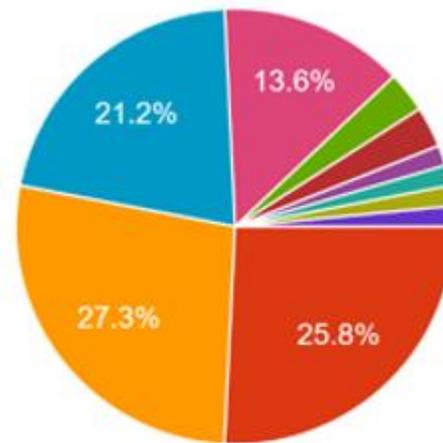
参加者の属性（アンケート結果）



第1回研修

- 学校・園の管理職
- 教諭
- 講師
- 養護教諭
- カウンセラー・ソーシャルワーカー
- 指導員（教育委員会等から学校へ派遣...）
- 地域支援者
- 行政関係者

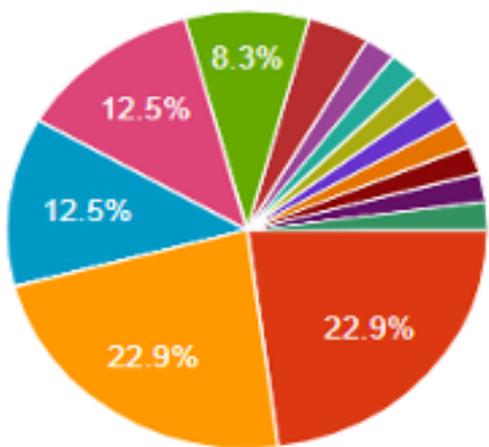
▲ 1/3 ▼



第2回研修

- 学校・園の管理職
- 教諭
- 講師
- 養護教諭
- カウンセラー・ソーシャルワーカー
- 指導員（教育委員会等から学校へ派遣...）
- 地域支援者
- 行政関係者

▲ 1/2 ▼



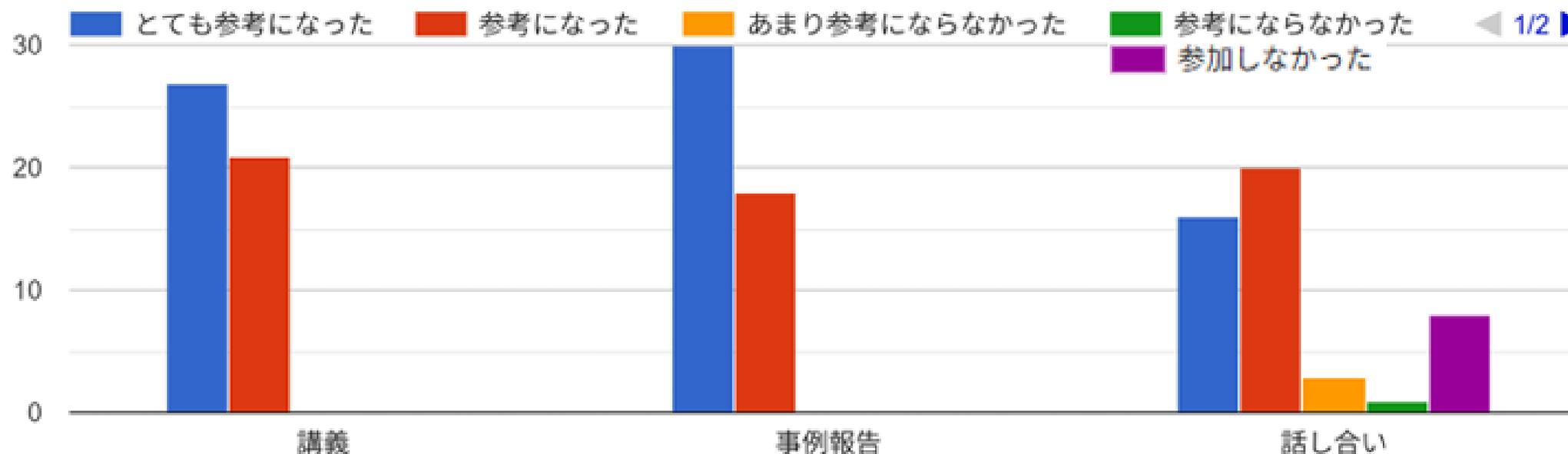
第3回研修

- 学校・園の管理職
- 教諭
- 講師
- 養護教諭
- カウンセラー・ソーシャルワーカー
- 指導員（教育委員会等から学校へ派遣...）
- 地域支援者
- 行政関係者

▲ 1/3 ▼

どの回も「教諭」「講師」「指導員」「地域支援者」の方が多い

参加者の満足度（アンケート結果）

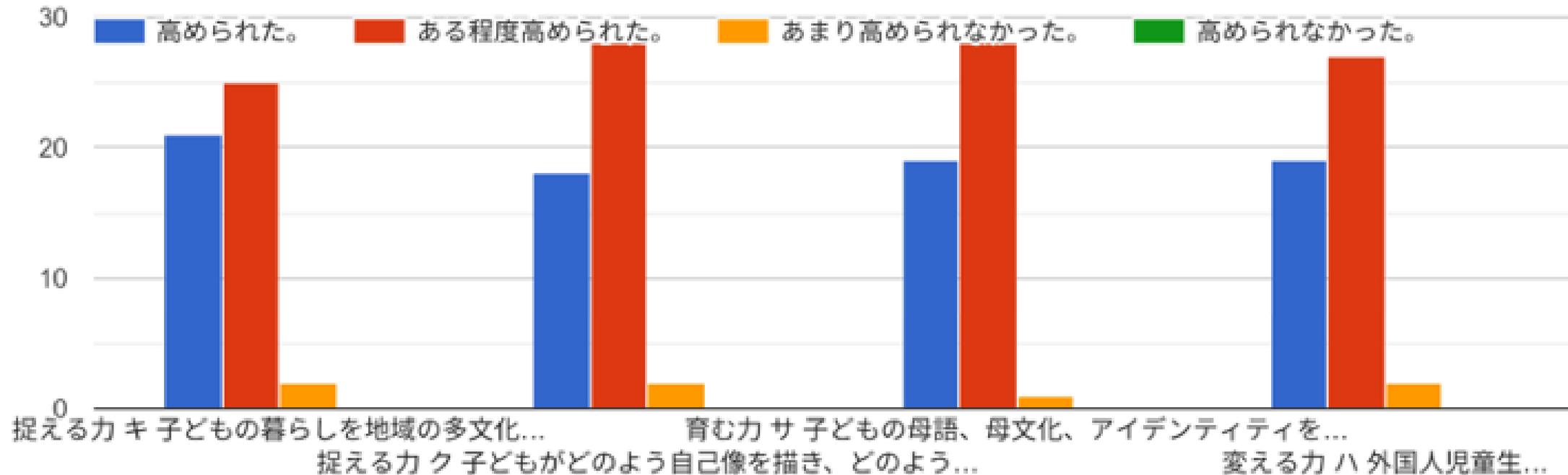


第3回目のアンケート結果（満足度）

各回において、講義・事例報告に関する満足度はおおむね高い。話し合い（グループワーク）は一定程度「参加しなかった」層があるが参加者の満足度は低くはない。（オンライン研修における課題）

めあてとした資質能力について

今後も資質能力の意識化を継続したい



第3回目のアンケート結果（資質能力）

- 捉える力
- キ 子どもの暮らしを地域の多文化化や外国人住民支援の状況に関連付けて把握することができる。
 - ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会参加し自己実現ができるかを、社会の変化とともに展望することができる。
- 育む力
- サ 子どもの母語、母文化、アイデンティティを尊重し、学級・学校・地域における社会参加を促すことができる。
 - ヒ 外国人児童生徒等が地域にもたらす影響を多様性として肯定的にとらえられるように、マジョリティである受け入れ側に働きかけることができる。

参加者の声（アンケート自由回答から）

- 学習デザインにおいて、学習環境の4要素から捉える視点が興味深いと思った。資質・能力ベース、主体性の重視、経験をもとにした新しい価値の創造など、日本語指導に限らず求められているところかと思うが、それをいかに外国人児童生徒等の多様性や力を生かした形で特別の教育課程でも実現していくのか「活動」をもとに検討することができ参考になった。ブレイクアウトルームでさまざまな立場の方と交流でき、交流の話題も明確であったので、有意義な時間となった。（第1回研修）
- 講義では、具体的な教材を使って具体的にどのような活動ができるかの提案があり、参考になった。事例報告も内容が非常に具体的だったので、自分の勤務校との違いを照らし合わせながら聞くことができた。また、話し合いも、具体的な教材名のほか、生成AIの活用の仕方など、今まで自分が考えていなかったようなアイデアをもらうことができた。（第2回研修）
- 前から思っていたことではありますが、自分の教室内の改善にとどまっていはいけないと改めて感じました。講師の立場では難しい面もありますが、教諭の先生方に働きかけ、周囲を巻き込みながら、生徒たちの学習環境を少しずつでも改善していきたいと思います。私自身の向社会性を高めていく必要性を強く感じました。（第3回研修）
- 参考になったのは、教師の資質をはっきりと言語化し、具体例も示してくれたこと。ただ、これまでの実践はどうだったのか、今後自分の実践でどのように具現化できるか、自分一人ではなかなか客観的な振り返りも、今後の計画も立てにくいと感じている。国語科としての授業づくりは、いろいろ相談しながら行っているが、日本語の指導は相談できる環境にない。（第1回研修）

資質能力への言及、具体的な事例とアイデア

環境の難しさへの言及も→研修やGWの役割